

#### 植物－４ ムサシアブミ

ムサシアブミ（武蔵鏡）は、サトイモ科の多年草で、照葉樹林や海岸に近い林の湿ったところなどに生えるテンナンショウの仲間です。3月から5月頃、暗紫色から緑白色の仏炎苞（ぶつえんほう）をもつ花をつけます。ムサシアブミの「鏡（あぶみ）」とは、馬に乗るときに足にかける金属の馬具のことです。昔、武蔵の国で作られた鏡が特に良質として知られ、花茎の仏炎苞のかたちが似ていることからこの名がつけました。塊茎は有毒で、昔は茎をたたいて潰し、くみ取り式トイレのウジ殺しに使っていました。漢方では天南星（てんなんしょう）と呼ばれ利用されています。

